高知県感染症発生動向調査（週報）

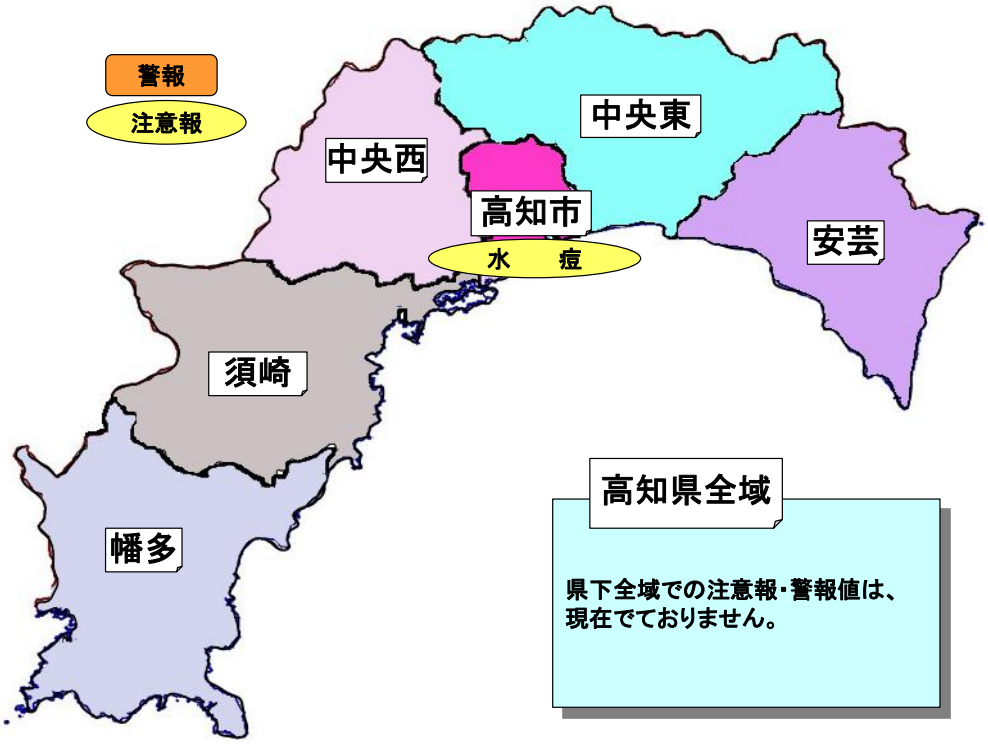
２０２１年　　第１１週　（３月１５日～３月２１日）

★県内での感染症発生状況　　インフルエンザ及び小児科定点把握感染症　（上位疾患５疾患）

↑：急増　↗：増加　→：横ばい　↘：減少　↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	1.57	安芸で急減していますが、須崎、中央西で急増、幡多で増加しています。
ヘルパンギーナ	→	0.61	中央西で急減、中央東で減少していますが、安芸で急増、高知市で増加しています。
水痘	↑	0.57	県全域、高知市、中央東で急増し、高知市では注意報値を超えています。
突発性発疹	↑	0.32	須崎、高知市で減少していますが、県全域、安芸、中央西、幡多、中央東で急増しています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	0.14	幡多で急減していますが、中央東、高知市で急増しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

咳やくしゃみの飛沫による感染症はたくさんあります。電車や職場、学校など人が集まる場所では「咳エチケット」で感染対策しましょう。

＜正しいマスクの着用＞

①鼻と口の両方を確実に覆う

②ゴムひもを耳にかける

③隙間がないよう鼻まで覆う

★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

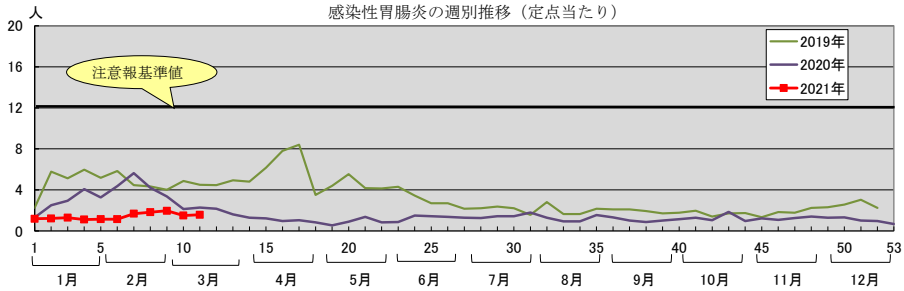
〇感染性胃腸炎に気を付けて！

この病気は、ウイルス又は細菌などの病原体により嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。

潜伏期は、ノロウイルスは 12～48 時間程度、その他のウイルスは 24～72 時間程度、細菌は数時間～5 日程度です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1 年を通じて発生していますが、特に冬場に流行します。発症してから通常 1 週間以内に回復しますが、症状消失後も 1 週間程度、長い時には 1 ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。



＜予防方法＞

・帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

・ウイルスによる感染性胃腸炎では便や嘔吐物を処理する時は気を付けましょう。（ノロウイルスについてアルコール消毒は無効です）

感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

・細菌による感染性胃腸炎の予防対策を心がけましょう。

食中毒の一般的な予防方法（【食中毒予防の三原則】食中毒菌を①付けない（洗う・分ける）　②増やさない（低温保存・早めに食べる）　③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存はさける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

第 11 週に高知市保健所で「日本紅斑熱」の発生届が 1 例報告されています。

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で 3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「**マダニに咬まれないこと**」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生環境研究所　ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内　　容	保健所
2 類	結　　核	1	9	70 歳代 女	須　崎
4 類	日本紅斑熱	1	1	40 歳代 男	高知市
5 類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	3	50 歳代 女	
	梅　　毒	1	15	50 歳代 女	

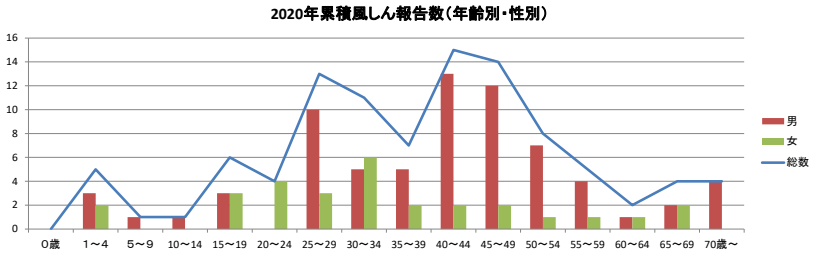
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情　　報
中央東	高知大学医学部付属病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例（1 歳女）
	JA 高知病院小児科	溶連菌咽頭炎 1 例（3 歳男）
	田村こどもクリニック	水痘 1 例（10~14 歳女：ワクチン 1 回済）
高知市	けら小児科・アレルギー科	サルモネラ O9 腸炎 1 例（7 歳）
	福井小児科・内科・循環器科	ヘルパンギーナ 5 例 伝染性紅斑 1 例（3 歳男）
須　崎	もりはた小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1 例（1 歳男）
幡　多	さたけ小児科	尿路感染症（大腸菌）1 例（11 ヶ月女） アデノウイルス 1 例（2 歳男）

★県外で注目すべき感染症

〇風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2021 年 9 週までの累積報告数は 4 人（男性 3 人、女性 1 人）、2020 年累積報告数は 100 人（男性 71 人、女性 29 人）となっており、そのうち 87%（87 人）が成人で、25 歳から 50 歳代の男性が中心となっています。



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。

風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では 2 つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

対象者・高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性

・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）

・風しんの追加的対策として、1972 年（昭和 47）年 4 月 2 日から 1979 年（昭和 54）年 4 月 1 日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

1962（昭和 37）年 4 月 2 日から 1972（昭和 47）年 4 月 1 日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）

検査結果：検査後 1～2 週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします

●厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第 5 期定期接種受託医療機関）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html
●無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/2020051200219.html
●風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf
●風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)
https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html

○高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVIT-19.html

高知県保健所別新型コロナウイルス感染症報告者数

			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
2月	22	月							0
	23	火							0
	24	水							0
	25	木							0
	26	金							0
	27	土							0
	28	日							0
3月	1	月							0
	2	火			3				3
	3	水							0
	4	木		1	8				9
	5	金			5				5
	6	土			1				1
	7	日			1				1
	8	月							0
	9	火			1				1
	10	水			1				1
	11	木		1					1
	12	金		2					2
	13	土							0
	14	日			1				1
	15	月							0
	16	火							0
	17	水			1				1
	18	木						1	1
	19	金						1	1
	20	土							0
	21	日							0
総計			29	110	640	44	30	59	912

数字は各地域でその日陽性が確認された数
総計はR2年2月28日以降の報告者数

★ 直近の新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザの状況（2021年3月12日現在）

（国立感染症研究所IDWR2021年第9号より）

新型コロナウイルス感染症：

2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認され、2020年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言され、3月11日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあると表明された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2021年3月12日15時現在、感染者数（死亡者数）は、世界で118,570,917例（2,629,522例）、194カ国・地域（集計方法変更：海外領土を本国分に計上）に広がった。

国内では、厚生労働省により公表されている、各自治体がプレスリリースしている個別の症例数（再陽性例を含む）を積み上げた情報によると、2021年3月12日0時現在、新型コロナウイルス感染症の検査陽性者数は444,289例、死亡者数は8,451例と報告されている。累積のPCR検査実施人数は、暫定値として,834,799

例であった。全国の報告日別新規陽性者数は、2020年9月後半（第39週）より増加傾向に転じ、2021年第1週（1月4〜10日）42,882例をピークとして減少傾向であった。検査数も第3週（1月18〜24日）513,832件をピークとして減少傾向であった。しかし、第9週（3月1〜7日）は、新規陽性者数7,237例、検査数32,058例となり、第8週（2月22〜28日）のそれぞれ7,084例、293,275例に比べて微増した。検査陽性率（検査数に対する陽性者数の割合）は、2020年第53週10.9%（23,423/213,986）をピークとして、2021年第3週6.8%（34,897/513,832）以降減少に転じ、第8週は2.4%（7,084/293,275）であった。第9週の検査陽性率は、新規陽性者数が増加したが検査数も増加し、2.2%（7,237/332,058）と僅かに減少した。

COVID-19による全国の入院治療等を要する者の数の推移については、2020年10月20日（5,031例）以降は、継続して増加していたが、2021年1月18日（71,129例）をピークに減少に転じ、3月5日以降は横ばいである（2021年3月12日現在）。また、全国の入院治療等を要する者のうち重症者数においても、2021年1月26日（1,043例）をピークに減少が続いている（354例：3月11日現在）。しかし、第1波時の重症者数のピークであった2020年4月30日（328例）を上回っている（2021年3月12日現在）。同様に、日本COVID-19対策ECMOnetが集計するECMO/人工呼吸器装着数の推移においても、感染者数の新たな増加に伴い、時間差をおいて2020年10月下旬から増加し、11月29日以降は4月と8月のそれぞれのピークを上回り、その後も増加を続けたが、2021年1月20日（623例）をピークに、減少傾向に転じた（2021年3月12日現在）。第9週は、第8週と比較して、検査陽性率は微減したものの、新規陽性者数は微増し、入院治療を有する者の数の減少傾向も鈍化した。在院中の重症患者数は、微減傾向であるものの、依然として多くの重症患者が入院しており、医療への負荷が懸念される地域が存在する。なお、重症患者数については、一部の都道府県においては、都道府県独自の基準にのっとって発表された数値を用いて算出されていることに注意する。また、全国的に、医療機関や介護施設等を含む集団感染（クラスター）の発生が継続して認められている。

感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の新規変異株の感染者が世界各地から報告され、いくつかの国ではこれらの変異株による感染者の割合が上昇している。警戒を要する変異株としては、英国で最初に検出されたVOC-202012/01、南アフリカで最初に検出された501Y.V2、ブラジルからの帰国者において日本で最初に検出された501Y.V3が挙げられる。国内においても渡航歴のない者や、渡航者と疫学的関連がない者からの新規変異株感染者が報告されている。これらの変異株の検出には検査体制の拡充が不可欠であり、全国で整備が進みつつある。変異株が検出された症例への対応は、通常のSARS-CoV-2感染症例への対応と原則、同様であるが、広域事例を含め、積極的疫学調査によりクラスターを検出し対応していくことがより重要である。

また、感染症発生動向調査（NESID）病原体サーベイランスには、医療機関、保健所等で採取された検体から、各都道府県市の地方衛生研究所、保健所、ならびに検疫所で検出された病原体の情報が陰性結果を含めて、任意ではあるが報告されている。2021年3月15日現在、地方衛生研究所および保健所から報告された、新型コロナウイルス感染症/新型コロナウイルス感染症疑い症例から検出された病原体は、SARS-CoV-2が14,946件、陰性が95,883件であった。これ以外にも検疫所で検出されたSARS-CoV-2が320件報告されている。

2020年5月29日以降、新型コロナウイルス感染症発生届に関する国への報告事務は、厚生労働省が運営する新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）を用いて行われることとなり、移行可能な自治体から順次、移行を実施し、現時点で全国の自治体で利用されている。厚生労働省においては、今後の統計情報の集計等については、HER-SYSに入力された情報に基づいて行うことを基本とするとしている。本稿では、HER-SYSに基づく情報は含めておらず、今後分析を行っていく予定である。

季節性インフルエンザ：

全国約5,000のインフルエンザ定点より報告された、2021年第9週（2021年3月10日現在）の定点当たりのインフルエンザ報告数は0.01（患者報告数26）となり、前週の定点当たり報告数0.01（患者報告数46）と同程度であった。都道府県別の第9週の定点当たり報告数（報告数）では兵庫県0.03（報告数5）、島根県0.03（報告数1）、宮城県0.02（報告数2）、茨城県0.02（報告数2）、京都府0.02（報告数3）、高知県0.02（報告数1）、大分県0.02（報告数1）、沖縄県0.02（報告数1）、北海道0.01（報告数2）、静岡県0.01（報告数1）、愛知県0.01（報告数1）、大阪府0.01（報告数2）、広島県0.01（報告数1）、埼玉県0.00（報告数1）、東京都0.00（報告数1）、神奈川県0.00（報告数1）となっている。定点医療機関からの報告を基にした、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数は約0.0万人（95%信頼区間：0〜0.0万人）となり、前週の推計値（約0.0万人）と同程度と推定された。また、全国約500の病原体定点からの報告

による感染症発生動向調査（NESID）病原体サーベイランスにおける、インフルエンザウイルス分離・検出速報によると、2020/21シーズンのインフルエンザウイルス分離・検出報告において、2020年第43週、第44週の長崎県からの報告として、採取検体からAH1pdm09がそれぞれ1例ずつ、2021年第6週の山形県からの報告として、採取検体からAH3が2例検出された（2021年3月10日現在）。より重症な患者を反映する、全国約500カ所の基幹定点医療機関からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス）においては、2020年第36週1例、第40週1例、第41週1例、第42週4例、第43週1例、第44週4例、第45週4例、第46週9例、第47週2例、第48週5例、第49週3例、第50週5例、第51週2例、第52週6例、第53週9例、2021年第1週7例、第2週8例、第3週3例、第4週8例、第5週4例、第6週8例、第7週8例、第8週6例、第9週3例（2021年3月10日現在）が報告されており依然として少数であった。
「感染症法に基づくサーベイランス」以外の情報においても、インフルエンザは低いレベルで推移しており、大きな増加傾向は見られていない。インフルエンザ様疾患発生報告数（全国の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様症状の患者による学校欠席者数）においては、2020年第36週以降、第37週に学年閉鎖1、第43週に学級閉鎖1、第44週に学級閉鎖1、2021年第6週に学年閉鎖1と学級閉鎖1、第7週に学年閉鎖1が報告された。「国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向」〔国立病院機構141病院で、診察医師がインフルエンザ（疑いを含む）と仮診断した患者にインフルエンザ迅速抗原検査を実施した検査件数と陽性となった数の報告〕のデータにおいては、2021年2月1～15日では2,404件の検査のうち、インフルエンザ陽性は0件、2月16～28日では1,744件の検査のうち、インフルエンザ陽性は0件と報告された。

新型コロナウイルス感染症においては、2021年第1週以降、全国的には新規の検査陽性者数が減少に転じ、その後に検査陽性率、入院患者数、重症患者数も減少に転じていたものの、3月12日現在、それらの減少傾向は非常に緩やか、若しくは横ばいになってきている。一方、現在も多くの重症者が入院している。インフルエンザについては、例年のピーク時期にも増加を認めず、現在、複数の指標で依然として低いレベルで推移している。なお、国立感染症研究所で公開している2020/21シーズンのインフルエンザ流行レベルマップは、2021年第9週（3月12日更新）を今シーズンにおける最終更新週とした。しかし、引き続き今後の状況に関する注視を行うとともに、変化が観測された際には国立感染症研究所ホームページ等で情報提供する。二つの感染症に共通する個人の予防策として、マスクの適切な使用、手洗い・手指衛生の徹底、適切な換気等の実施に努めていただきたい。

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850　高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961　FAX：088-825-2869
この情報に記載のデータは2021年3月22日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報（57定点医療機関）

第11週　令和3年3月15日（月）～令和3年3月21日（日）　　高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名＼保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国（10週）	高知県（11週末累計）R3/1/4～R3/3/21	全国（10週末累計）R3/1/4～R3/3/14
インフルエンザ	インフルエンザ							( )	( )	44 (0.01)	2 (0.04)	534 (0.11)
小児科	咽頭結膜熱		1			1	1	3 (0.11)	1 (0.04)	453 (0.15)	35 (1.17)	6,262 (1.99)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	2				4 (0.14)	4 (0.14)	2,450 (0.78)	84 (2.80)	22,171 (7.03)
	感染性胃腸炎		5	19	3	4	13	44 (1.57)	42 (1.50)	9,147 (2.93)	437 (14.57)	85,660 (27.17)
	水痘		4	12				16 (0.57)	( )	293 (0.09)	56 (1.87)	3,767 (1.19)
	手足口病		1					1 (0.04)	11 (0.39)	60 (0.02)	71 (2.37)	1,128 (0.36)
	伝染性紅斑		1	1				2 (0.07)	3 (0.11)	54 (0.02)	16 (0.53)	473 (0.15)
	突発性発疹	4	1	1	1	1	1	9 (0.32)	4 (0.14)	1,130 (0.36)	91 (3.03)	11,396 (3.61)
	ヘルパンギーナ	1	3	11	2			17 (0.61)	19 (0.68)	102 (0.03)	106 (3.53)	838 (0.27)
	流行性耳下腺炎		1					1 (0.04)	2 (0.07)	109 (0.03)	5 (0.17)	1,131 (0.36)
	RSウイルス感染症							( )	( )	1,823 (0.58)	( )	9,189 (2.91)
眼科	急性出血性結膜炎							( )	( )	1 ( )	( )	24 (0.03)
	流行性角結膜炎							( )	1 (0.33)	114 (0.17)	4 (1.33)	1,233 (1.78)
基幹	細菌性髄膜炎							( )	( )	9 (0.02)	( )	65 (0.14)
	無菌性髄膜炎							( )	( )	5 (0.01)	( )	85 (0.18)
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.13)	1 (0.13)	26 (0.06)	3 (0.38)	178 (0.37)
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）							( )	( )	1 ( )	( )	3 (0.01)
	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）							( )	( )	4 (0.01)	2 (0.25)	25 (0.05)
計（小児科定点当たり人数）		5 (2.50)	19 (2.70)	47 (5.10)	6 (2.00)	6 (3.00)	15 (3.00)	98 (3.47)	88 (3.07)	15,825	912 (30.08)	144,162
前週（小児科定点当たり人数）		7 (3.50)	18 (2.56)	41 (4.33)	8 (2.67)	4 (2.00)	10 (2.00)					

注　( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報（57定点医療機関）定点当たり人数

定点当たり　　第11週

定点名	疾病名＼保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国（10週）	高知県（11週末累計）R3/1/4～R3/3/21	全国（10週末累計）R3/1/4～R3/3/14
インフルエンザ	インフルエンザ									0.01	0.04	0.11
小児科	咽頭結膜熱		0.14			0.50	0.20	0.11	0.04	0.15	1.17	1.99
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.29	0.22				0.14	0.14	0.78	2.80	7.03
	感染性胃腸炎		0.71	2.11	1.00	2.00	2.60	1.57	1.50	2.93	14.57	27.17
	水痘		0.57	1.33				0.57		0.09	1.87	1.19
	手足口病		0.14					0.04	0.39	0.02	2.37	0.36
	伝染性紅斑		0.14	0.11				0.07	0.11	0.02	0.53	0.15
	突発性発疹	2.00	0.14	0.11	0.33	0.50	0.20	0.32	0.14	0.36	3.03	3.61
	ヘルパンギーナ	0.50	0.43	1.22	0.67			0.61	0.68	0.03	3.53	0.27
	流行性耳下腺炎		0.14					0.04	0.07	0.03	0.17	0.36
	RSウイルス感染症									0.58		2.91
眼科	急性出血性結膜炎											0.03
	流行性角結膜炎								0.33	0.17	1.33	1.78
基幹	細菌性髄膜炎									0.02		0.14
	無菌性髄膜炎									0.01		0.18
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13	0.13	0.06	0.38	0.37
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）											0.01
	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）									0.01	0.25	0.05
計（小児科定点当たり人数）		2.50	2.70	5.10	2.00	3.00	3.00	3.47			30.08	
前週（小児科定点当たり人数）		3.50	2.56	4.33	2.67	2.00	2.00		3.07			

疾病別・年齢別報告数

高知県感染症情報（57定点医療機関） 疾病別・年齢別報告数

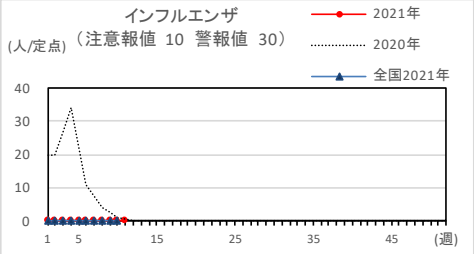
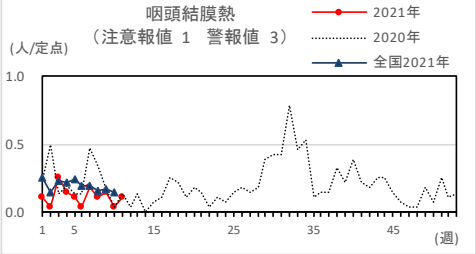
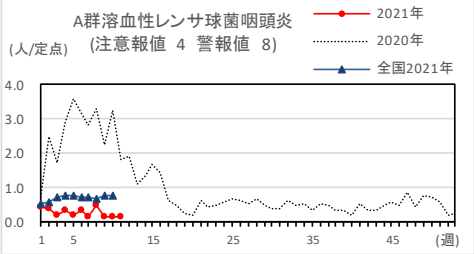
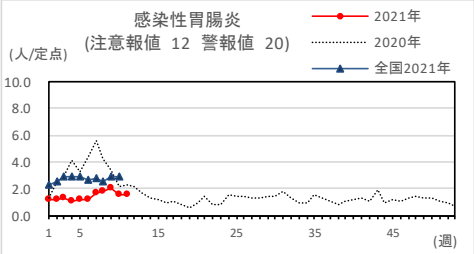
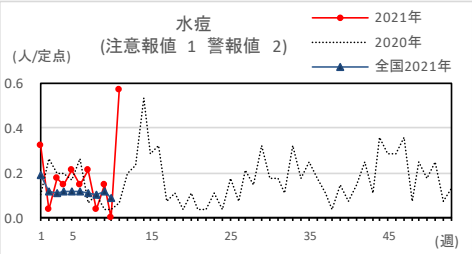
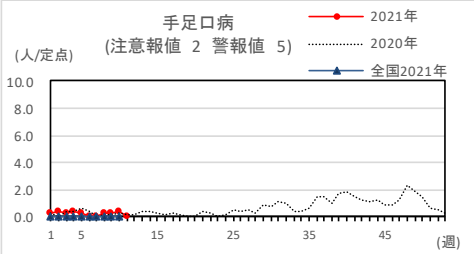
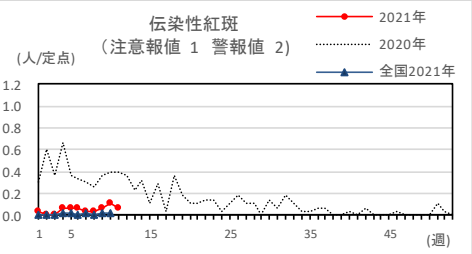
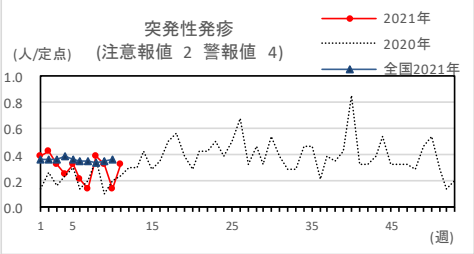
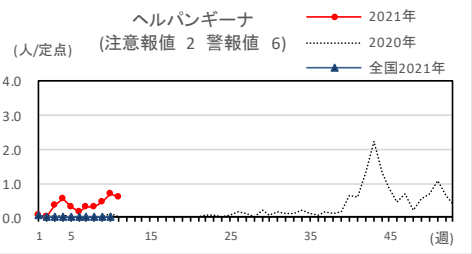
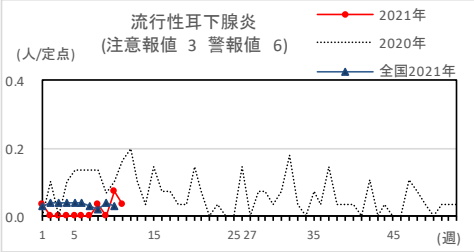
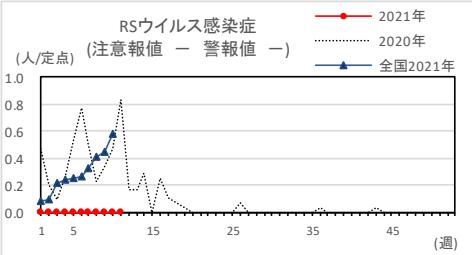
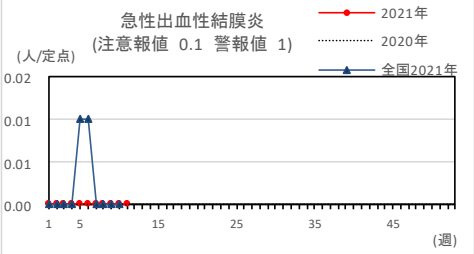
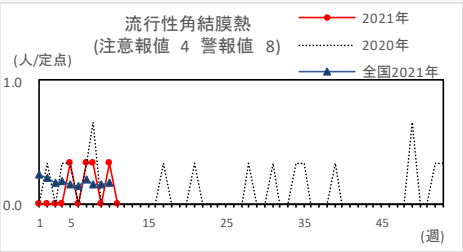
第11週

定点（定点数）	疾病名	合計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～
インフルエンザ 内科・小児科（46）	インフルエンザ																					

定点（定点数）	疾病名	合計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～
小児科（28）	咽頭結膜熱	3		1	1	1										
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4			1		1			1			1			
	感染性胃腸炎	44		3	3	4	4	5	3	1	4	2	5	9		1
	水症	16						9	2	1		2	1	1		
	手足口病	1				1										
	伝染性紅斑	2					1			1						
	突発性発疹	9		4	4	1										
	ヘルパンギーナ	17			3	5	5	1	1			1			1	
	流行性耳下腺炎	1							1							
	RSウイルス感染症															

定点（定点数）	疾病名	合計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～
眼科（3）	急性出血性結膜炎																				
	流行性角結膜炎																				

定点（定点数）	疾病名	合計	0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～
基幹（8）	細菌性髄膜炎																	
	無菌性髄膜炎																	
	マイコプラズマ肺炎	1													1			
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）																	
	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報　疾病別年次報告数推移(2021年　第11週)